

機関番号：34602

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007年度～2010年度

課題番号：19520716

研究課題名（和文）

近代大和を中心とした産育習俗の変容に関する民俗学および人類学的研究

研究課題名（英文）

Folklore and Anthropological Research on Changes in Childbirth and Childrearing Customs Centered on the Yamato Region in the Early Modern Period

研究代表者

安井 眞奈美 (YASUI MANAMI)

天理大学・文学部・教授

研究者番号：40309513

研究成果の概要（和文）：

本研究では、近代における出産・育児の変容を明らかにするため、「奈良県風俗誌」と呼ばれる大正4年（1915）に編纂された史料の出産・育児に関する記述を翻刻し、分析を行なった。この史料は、奈良県教育会によって大正天皇即位大礼記念事業の一つとして実施された、民俗調査の膨大な報告書群である（未刊行）。本研究では、明治期から大正期にかけて、出産・育児習俗がいかに変容したのかを明らかにし、当時の出産観や子ども観についても考察した。

研究成果の概要（英文）：

In order to clarify the changes in childbirth and childrearing in the early modern period, this project reprinted and analyzed descriptions, related to childbirth and childrearing, from a collection of materials compiled in 1915 and titled *Nara-ken fūzokushi* (Nara Prefecture Folklore Study), a vast collection of (unpublished) reports from a folklore survey conducted by the Nara Educational Society as a project commemorating Emperor Taishō's ascension. In addition to illuminating thereby the changes in childbirth and childrearing customs from the latter half of the Meiji to the start of the Taishō eras (from the last part of the nineteenth into the early twentieth centuries), this study also makes observations on the views of childbirth and children of that period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：民俗学、文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：出産、育児、子ども、近代、奈良県風俗誌、産婆・助産婦、文化変容、死生観

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の出発点

本研究が対象とする史料「奈良県風俗誌」は、大正4年(1915)に編纂された民俗調査の膨大な報告書群である(未刊行)。この調査は、大正天皇即位大礼記念事業の一つとして奈良県教育会によって実施された。

本研究が、その出発点として近代大和に焦点を合わせた理由は、以下の3点である。

- ①「奈良県風俗誌」のように、県下全域で同一の質問項目に従って一斉に実施された調査は全国に類がないという点。
- ②研究代表者および研究分担者が奈良県内に勤務、また在住しているため、民俗学および人類学のフィールドワークの利便性に恵まれていた点。
- ③近年の奈良県は、産婦人科医の減少から、産む環境の整備が整わず、全国的にみても劣悪な状況にあると言われている。それゆえ本研究が、現代の医療環境の矛盾を分析する上で、近代に遡って考察する際の基礎的な資料になり得るという点。

(2) 「奈良県風俗誌」の特徴

「奈良県風俗誌」の膨大な史料群は、現存する80冊の手書きの報告書よりなり、現在、奈良県立図書情報館に所蔵されている。その内容は、「建物造作」から「経済」までの39分野にわたる1200以上もの詳細な質問に答える形で編集されている。その中でもっとも質問数の多い項目が、「子供並育児」である。このような「奈良県風俗誌」の史料的な価値や重要性については、これまでも先行研究で指摘されてきたが、史料が膨大であること、未刊行であることなどから、本格的な研究はあまり行なわれてこなかった。そこで本研究では、この史料のうち、とくに出産・育児に関する記述の翻刻を試み、分析を行なうこととした。

(3) 研究成果

本研究の成果は、近代大和にとどまらず、広く近代日本における出産・育児の儀礼や習俗の変容を分析する際の、詳細かつ貴重な資料を提供できると言える。また本研究の成果は、日本の出産・育児習俗の、近世から近代への変容を明確にする研究に貢献し得ると同時に、現代の出産に関する医療環境が作られてきた過程を検証する際の資料としても活用できると言える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代大和における産育に関する習俗を、大正4年(1915)に編纂された「奈良県風俗誌」と呼ばれる膨大な史料群から明らかにし、人々の死生観や子どもに対する意識を浮かび上がらせることであった。現存する「奈良県風俗誌」80冊について、出産および育児・子どもに関する記述の部分を翻刻し、基礎的な資料集の刊行を最終目標とした。

研究を進めるにあたり、以下のような内容を盛り込んだ。

(1) 「奈良県風俗誌」という史料の成立背景を、近代大和の地誌の中から明らかにする。

(2) 「奈良県風俗誌」が主として扱った明治後期から大正初期頃の、妊娠や出産、避妊、墮胎などの状況を、先行研究や奈良県に関する文献資料より明らかにする。

(3) 明治期に新たに登場した、医学を学んだ産婆(新産婆)と従来の産婆(旧産婆)との違い、産婆に関する規則の制定、両産婆の違いなどを明らかにする。

(4) 奈良県内でフィールドワークを行い、「奈良県風俗誌」以降の妊娠・出産習俗の変容過程を明らかにする。

(5) 「奈良県風俗誌」にみる育児や子どもについての記述を分析するため、近年の育児研究を参照しながら、その実態を捉える。

3. 研究の方法

(1) 翻刻作業

作業に入る前に、本研究が取り扱う「奈良県風俗誌」80冊(奈良県立図書情報館蔵)のコピーをほぼ終了し、研究に着手する準備段階を終えていた。それゆえ、まずは翻刻作業から始めた。出産の項目「第21類 冠婚葬祭並内祝」の「懐胎・分娩」の記述をすべてパソコンに入力し、翻刻した。「第15類 育児並子供」については、ページ数が膨大であるため、奈良市の風俗誌のみ翻刻を行なった。なお、翻刻作業とあわせて、妊娠・出産・子どもの記述に関してわかりにくい用語や地域特有の名称、民間薬の地域名などについてグローサリーを作成し、理解の一助とした。

(2) 出産・育児についての研究整理

「奈良県風俗誌」の出産・育児に関する記述の特徴を浮かび上がらせるため、その基礎作業として、近年、民俗学・社会学・文化人

類学・歴史学などで進められている出産・育児研究の最新の動向をおさえた。おもに安井眞奈美が出産の研究を、飯島吉晴が育児の研究を担当し、文献の収集を行なった。

(3) 近代大和の地域研究における「奈良県風俗誌」の位置づけ

「奈良県風俗誌」という史料を、大和の地域研究のなかに位置づけるため、「奈良県風俗誌」と同時代に刊行された奈良県内の郡史・町村史のリストを作成した。天理大学付属図書館および奈良県立図書館で情報収集を行ない、それ以外の資料については、国立国会図書館所蔵の資料収集とコピーを行なった。

(4) 奈良県内のフィールドワーク

「奈良県風俗誌」の成立に関して地域で何らかの記録や情報が残されていないか、現地に赴いて聞き取り調査を行なった。また「奈良県風俗誌」の残されていない町村についても出産・育児習俗の確認作業を行なった。前者については天理市福住町にて、後者については吉野郡十津川村にて調査を行なった。

(5) 出産・育児に関するシンポジウムの開催

調査研究の中間報告および国内外から広く意見を求めるために、2008年12月にシンポジウムを開催した。公開インタビュー、ディスカッションなどを行ない、近代から現代にかけての出産・育児習俗の全貌を明らかにした。また、奈良県風俗誌が近代の出産・育児習俗を明らかにする貴重かつ基礎的な資料である点を重視し、それを今後の研究に活かす方法、また、現代の出産・育児についても積極的に活かしていけるような社会的貢献の方法を具体的に考察した。

(6) 「奈良県風俗誌」の出産・育児の記述についての分析

「奈良県風俗誌」の記述の特徴、地域的な特徴などを明らかにし、全貌をつかみ、ここから近代の出産・育児の特徴を明らかにした。

4. 研究成果

(1) 「奈良県風俗誌」の翻刻作業

現存する「奈良県風俗誌」すべてに関して、出産の項目「第21類 冠婚葬祭並内祝」の「懐胎・分娩」の翻刻を終えた。「第15類 育児並子供」については、奈良市の風俗誌のみ翻刻を行なった。また、用語の解説(グlossary)も加えた。

(2) 「奈良県風俗誌」の性格づけと内容の分析

①安井眞奈美は、「奈良県風俗誌」の史料的な位置づけと、出産・育児に関する具体的な記述の分析を行なった。

②飯島吉晴は、「奈良県風俗誌」以外の近代の産育史料に基づき、近代の出産・育児習俗について明らかにした。

③齊藤純は、近代大和における「奈良県風俗誌」という史料の性格と、とくに「風俗」が問われるようになった時代背景を明らかにした。

④研究協力者で主に翻刻を担当した柿本雅美は、「子供並育児」の子供の名づけに注目し、奈良県内の名づけの特徴を明らかにした。

*なお(1)と(2)の成果は『出産・育児の近代——「奈良県風俗誌」を読む』として、2011年12月に法蔵館より出版予定である。

(3) 地元の方々と「奈良県風俗誌」を読む

天理市福住村にて、安井眞奈美が「福住村の昔の暮らし——明治～大正期の資料「奈良県風俗誌」より」と題して講演を行ない(2009年)、地元の方々と「奈良県風俗誌」を読み、意見交換を行なった。

(4) 出産に関するシンポジウムの開催

2008年12月に「産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ」(於:天理大学)と題してシンポジウムを行なった。2009年10月にはその成果として、『産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ』(風響社)を出版した。

(5) 海外での研究発表(フランス・パリ)

科研代表者の安井眞奈美が、2009年2月15日から3月16日までの1ヶ月間、フランス高等社会科学研究院(Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales)からの招聘で、日本の<出産>文化について講義するため、パリに滞在した。研究成果を海外にて発表し、それをフランスの研究者と共有し、有意義な成果を得ることができた。また今後、日本とフランスの出産文化の比較研究を進めていく足場を得られた。

安井が講義を行なった場所は、以下の通りである。

*フランス高等社会科学研究院(Antoinette Fauve-Chamoux 教授、Mary Picone 教授)

*フランス国立東洋言語文化大学(イナルコ)日本研究センター(Jean-Michel Butel ジャン＝ミシェル ビュテル准教授)

*フランス高等社会科学研究院(Nilufer

Gole 教授・パリ第7大学矢田部和彦准教授)
*パリ第7大学 (Hayek Matthias 講師)
*天理日仏文化協会 (パリ)

(6)「奈良お産アンケート」への参加 (安井)

奈良お産アンケートの会 (田間泰子・内藤恵美子・安井眞奈美) による「安心な出産のための奈良県アンケート」に安井が参加し、奈良お産アンケートの会として報告書を作成した。このアンケートの分析により、奈良県の現状を把握することができた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 20 件)

安井眞奈美

「抜けた乳歯の行方——身体観の変容にせまる」『比較日本文化研究』14、2010、pp. 131-146、査読有

安井眞奈美

「書評 荻野美穂『「家族計画」への道——近代日本の生殖をめぐる政治』』『社会人類学年報』35、2009、pp. 173-176、査読有

安井眞奈美

「おんぶと抱っこの変容——身体技法に関する人類学的研究にむけて」『天理大学学報』第59巻第2号(通巻第217号)、2008、pp. 1-16、査読有
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40015901701>

安井眞奈美

「トリアゲバアサンと近代産婆が共存する時代——「奈良県風俗誌」にみる明治後期から大正初期にかけての産婆と女性の身体」『総合教育センター紀要 天理大学人間学部』6、2008、pp. 16-32、査読有
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40015988905>

安井眞奈美

「近代大和の民俗資料『奈良県風俗誌』——高田十郎の関わりを中心に」『比較日本文化研究』11、2007、pp. 120-131、査読有

安井眞奈美

「日本統治時代のパラオにおける出産と日本人産婆」『古事』11、2007、pp. 52-59、査読無

飯島吉晴

「豆腐小僧の周辺——小さ子神の系譜」『怪』32、2011、pp. 164-171、査読無

飯島吉晴

「日本人の遺体観と遺骨崇拜」『日本医事新報』4533、2011、pp. 90-92、査読無

飯島吉晴

「厄年と年祝い」『日本医事新報』4478、2010、pp. 102-103、査読無

飯島吉晴

「異常出産児の民俗」『天理大学人権問題研究室ニュース』15、2010、pp. 4-5、査読無

飯島吉晴

「土俗神の系譜」『怪』28、2009、pp. 33-40、査読無

飯島吉晴

「聖数「七」のフォークロア」『古事』13、2009、pp. 25-33、査読無

飯島吉晴

「男の子が大人になるための通過儀礼」『児童心理』No. 874、2008、pp. 107-113、査読無

齊藤 純

「迷子するべ石を訪ねて」『まほら』65、2010、pp. 44-45、査読無

齊藤 純

「はなす、聞く、そして、見る、触れる伝承」『口承文芸研究』32、2009、pp. 144-148、査読有

齊藤 純

「桃太郎の生まれた場所」小長谷有紀・加藤泰子・内ヶ崎有里子・阿部紀子『次世代をはぐくむために——昔話研究を幼児教育に活かす』2008、pp. 187-192、査読無

齊藤 純

「猿橋の桃太郎——見立てから伝説へ——」『世間話研究』17、2007、pp. 1-25、査読有

齊藤 純

「伝説と観光」日本口承文芸学会編『シリーズことばの世界 第3巻 はなす』2007、pp. 88-100、査読無

[学会発表] (計 11 件)

安井眞奈美

「旧産婆と新産婆がいた時代——奈良県風俗

誌」にみる出産習俗の変容」京都民俗学会談話会、2009年8月4日、京都コンソーシアム（京都）

安井真奈美

「日本の〈出産〉文化の変容——胞衣（胎盤）のイメージを中心に」第19回エスパス・ベルダン・ポワレ文化講演会、2009年3月6日、日仏天理文化協会

安井真奈美

「水子供養のその後——産女から水子、ネット水子へ」日本の民俗文化に関する講演、2009年3月3日、フランス・パリ、パリ第7大学

安井真奈美

「日本の産婆の近代」“The Age of Midwives in Japan”日本の文化と歴史を学ぶ講演、2009年2月27日、フランス・パリ、フランス国立東洋言語文化大学（イナルコ）日本研究センター

安井真奈美

「胞衣（えな）の習俗の変容——子どもの分身から捨てる汚物へ」日本の文化と歴史を学ぶ講演会、2009年2月23日、フランス国立東洋言語文化大学（イナルコ）日本研究センター

安井真奈美

「妊婦分離埋葬習俗と出産観、生命観について」“On Burial Customs, Maternal Spirits, and the Fetus in Japan” Histoire de la famille, centre de Recherches Historique、2009年2月26日、フランス・パリ フランス高等社会科学研究院

安井真奈美

「昔の出産・異文化の出産を聞いてみよう」および「出産を取りまく社会の変化」シンポジウム「産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ」、2008年12月13日、天理大学

飯島吉晴

「出産を取りまく社会の変化」シンポジウム「産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ」、2008年12月13日、天理大学

齊藤 純

「巨勢路の歴史と伝承を歩く」第105回奈良

学文化講座「つらつら椿の里・巨勢路をゆく」東海旅客鉄道株式会社・奈良学文化講座運営委員会、2009年3月7日、御所市古瀬ほか

齊藤 純

「若草山と理源大師の大蛇退治説話——山焼き由来譚にみる水の伝説——」説話・伝承学会2008年度1月例会、2009年1月11日、奈良教育大学

齊藤 純

「出産を取りまく社会の変化」シンポジウム「産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ」2008年12月13日、天理大学

〔図書〕（計11件）

安井真奈美（共著）

勉誠出版、松岡悦子・小浜正子編『世界の出産——儀礼から先端医療まで』2011、総334頁（pp. 259-266）

安井真奈美（共著）

山口県、山口県編『山口県史 民俗編』2010、総1011頁（pp. 603-664、pp. 803-868）

安井真奈美（共著）

奈良お産アンケートの会、奈良お産アンケートの会（田間泰子・内藤恵美子・安井真奈美）著『安心な出産のための奈良県アンケート』調査報告書 データ編改訂版』2010、総360頁

安井真奈美（共著）

奈良お産アンケートの会、奈良お産アンケートの会（田間泰子・内藤恵美子・安井真奈美）著『安心な出産のための奈良県アンケート』調査報告書 分析編』2010、総94頁（pp. 76-87）

安井真奈美（共著）

せりか書房、小松和彦編『妖怪文化叢 妖怪文化の伝統と創造—絵巻・草紙からマンガ・ラノベまで—』2010、総627頁（pp. 585-603）

安井真奈美（編著）、飯島吉晴、齊藤純

風響社『産む・育てる・伝える——昔のお産・異文化のお産に学ぶ』2009、総200頁

安井真奈美（共著）

法蔵館、小松和彦還暦記念論集刊行会『日本文化の人類学/異文化の民俗学』2008、総784頁（pp. 3-17、pp. 696-714）

飯島吉晴（共著）

吉川弘文館『成長と人生』（日本の民俗8）
2009、総 293 頁（pp. 1-118）

齊藤 純（共著）

せりか書房、小松和彦編『〈妖怪文化叢〉妖怪文化の伝統と創造—絵巻・草紙からマンガ・ラノベまで—』2010、総 627 頁
（pp. 390-411）

齊藤 純（共著）

くろしお出版『昔ばなしで親しむ環境倫理—エコロジーの心を育む読み聞かせ—』2009、
総 204 頁（pp. 151-168）

齊藤 純（共著）

国立民族学博物館『次世代をはぐくむために
昔話研究を幼児教育に活かす』2008、総 204
頁（pp. 187-192）

6. 研究組織

（1）研究代表者

安井 眞奈美（YASUI MANAMI）
天理大学・文学部・教授
研究者番号：40309513

（2）研究分担者

飯島 吉晴（IIJIMA YOSHIHARU）
天理大学・文学部・教授
研究者番号：30184344

齊藤 純（SAITO JUN）
天理大学・文学部・教授
研究者番号：00319922

（3）研究協力者

柿本 雅美（KAKIMOTO MASAMI）
佛教大学大学院博士後期課程

高橋 大樹（TAKAHASHI HIROKI）
大津市歴史博物館学芸員